

第77回 日本公衆衛生学会総会

The 77th Annual Meeting of Japanese Society of Public Health

テーマ **ゆりかごから看取りまでの公衆衛生 ～災害対応から考える健康支援～**

元気高齢者の住民力を活かした「公衆衛生分野職員によるまちづくり」

◆シンポジウム 17

座長：(一社)元気づくり大学 学長 大平 利久
四国医療産業研究所 所長 櫃本 真聿

シンポジスト：

福島県伊達市健康福祉部健康都市づくり課 元気づくり係 係長 菅野 恭子
「ささやかな介入の制度化（見える化）」の実践と課題

栃木県市貝町健康福祉課 課長補佐兼健康づくり係長 川上 和幸
一課でも実践できる「まちづくり」

下関市立大学経済学部 准教授 小笠原 正志
ヘルスプロモーション活動と経済性

(一社)元気づくり大学 副学長 大澤 裕美
元気高齢者から育まれる「まちづくり」の提案



公募シンポジウム

第77回 日本公衆衛生学会総会

シンポジウム17：座長 大平利久 櫃本真聿

元気高齢者の住民力を活かした「公衆衛生分野職員によるまちづくり」

《シンポジウムの開催主旨》

高齢者が増加すればするほど、“地域が” “まちが” 活力を増していく!!!こんな夢のような市町村事業『元気づくりシステム』の構築と運用実績を経て、全国普及に向けての研究や制度化が進展しています。そして、この元気づくりシステムを事業展開している市町と本大学が連携しOJTキャンパスを開設したことで、システム導入のハードルが低くなり市町村の市町村による市町村のための福祉政策としての導入が容易になってきました。本シンポジウムは、上記の背景をふまえ、これまで日本公衆衛生学会へ10数年にわたり報告してきた『元気づくりシステム構築に関する研究を、次の全国普及を目指した研究開発段階へと発展させ、導入運用を通して全国市町村職員の政策遂行能力の向上に寄与し、元気なまちづくりに貢献しようとするこことし開催します。

H30. 10. 25
(一社)元気づくり大学

元気づくり大学の6市町キャンパス★



熊本県南関町



広島県北広島町



福島県伊達市



栃木県市貝町



三重県玉城町



三重県いなべ市



《シンポジウムの論点》

この公開シンポジウムでは、関連市町の伊達市職員、市貝町職員から元気づくりシステムの運用実態から実績と課題、さらには各まちづくりとの関連性について報告する。また、全国市町村の健康づくり事業に係ってきた下関市立大学研究者から、ヘルスプロモーションを活用する元気づくりシステムの経済性について論じていただく。

そして今回は、このシステム関連研究の一区切りとして、元気づくりシステムから育まれる「まちづくり」と題して、全国6キャンパスにおける元気高齢者の発現状況、さらには、これを支えるコーディネーター育成状況などを元気づくり大学から報告する。そのうえで、システムから元気高齢者が発現することから、共助拡大、住民力、住民カスパイラル、地域力、3種経済循環、経済的価値、社会的価値、住民が幸せで元気なまち発現へと続く研究過程を提示することで、市町村人材育成のミッションを示す。

総括議論として、これまでの医療介護依存で国、市町村主導のフォーマル型政策(資本：金で解決)中心から、元気づくりシステムの様な住民アイデンティティを活かしたインフォーマル型政策主体への転換を示唆する。そして、この転換を引き起す原動力になるのが、アドボカシー的に動く市町村職員であり、これこそが「元気なまちづくりに繋がる」ことを提案することで、会場参加者を交えての議論としたい。